LC
りぽーと
Vol. 27

〒663-8558　西宮市池開町6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
TEL　0798(45)3536
FAX　0798(45)3574
http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC

「しっかり」テニス、「ゆっくり」ゴルフ

「LCりぽーと26号」(2007年発行) では、スポーツ (主に野球とサッカー) を語る際に「動詞」がどのような使われ方をしているのかに注目して報告しました。語彙調査の結果、スポーツを語るのにふさわしい動詞がある一方で、スポーツらしくない動詞が上位にランクインしていました。そのスポーツらしくない動詞によって、スポーツ選手の「スポーツ人生」が語られるのだとの説を述べました。

今回は、野球、サッカーに次いでメジャーなスポーツと思われる、テニスとゴルフとをテーマに取り上げました。それぞれ、専門の雑誌をもとに、テニス、ゴルフの上達法を述べた部分の記事について語彙調査を行い、それぞれの技術を述べる際には、どのようなことばがかかわっているのかを明らかにすることを目的とします。

◆調査概要

雑　誌	『Tennis』(月刊) 2008年４月号～８月号　計５冊	『Golf Classic』(月刊) 2008年４月号～８月号　計５冊
対象記事	目次の「TechniqueSpecial」及び「やり直しシリーズ／テニス基本の「き」」のタイトルで掲載された内容 (テニスの技術面、メンタル面など上達法について書かれた内容)。	目次の「尾崎健夫スペシャルレッスン」及び「プロ直伝！「使える」コース攻略法」のタイトルで掲載された内容 (ゴルフの技術面、メンタル面など上達法について書かれた内容)。
データの取り方	どちらも、誌面上、まとまりのある記事の数をカウントし、順に通し番号をつける。等間隔に、「Technique Special」は記事全体の約６分の１の量を、「やり直しシリーズ／テニス基本の「き」」は記事全体の約３分の１の量を対象データとする。奇数月は通し番号の奇数(1)から、偶数月は偶数(2)から取り始める。	どちらも掲載内容全文を対象データとする。見出し、小見出しは除く。広告ページは対象外。
データ数	554センテンス	771センテンス
自立語延べ	6,388語	9,111語

語の単位は、国立国語研究所による長単位である。以下に調査結果の一部を報告する。

Ⅰ．共通する語

表１　共通する語（テニス（T）頻度５以上　ゴルフ（G）頻度７以上）

語	T頻度	G頻度	TG合計
ボール	93	113	206
打つ	95	60	155
スイング	16	105	121
体	51	64	115
思う	37	47	84
考える	26	40	66
使う	28	37	65
大きい	9	54	63
回転	19	39	58
振る	8	49	57
自分	33	21	54
人	17	37	54
大きな	7	41	48
中	25	22	47
インパクト	12	33	45
高い	21	24	45
出る	20	25	45
持つ	12	32	44
ポイント	14	29	43
ミス	16	27	43
動き	15	25	40
見る	29	10	39
状態	7	32	39
回転する	6	31	37
力	6	31	37
入る	15	21	36
必要	11	25	36
次	15	19	34
実際	5	29	34
状況	8	26	34
速い	14	20	34
距離	5	28	33
肩	13	19	32
強い	17	14	31
言う	23	7	30
方	12	18	30
場合	15	14	29
パワー	15	13	28
早い	18	10	28
同じ	14	14	28
上げる	8	19	27
前	18	9	27
重要	9	15	24
しっかり	14	8	22
方向	6	16	22
知る	11	10	21
低い	7	14	21
余裕	7	14	21
ショット	11	9	20
位置	5	15	20
感じる	7	13	20
軌道	6	14	20
腕	9	11	20
スピード	11	8	19
正しい	10	9	19
遅い	12	7	19
長い	7	12	19
変える	7	12	19
方法	6	13	19
近い	10	8	18
決める	6	12	18
今	6	12	18
写真	7	11	18
手	5	13	18
イメージ	5	12	17
ほとんど	9	8	17
軸	5	12	17
上	7	10	17
スピン	7	9	16
使い方	7	9	16
小さい	5	11	16
打てる	9	7	16
無理	6	10	16
見える	8	7	15
出す	5	10	15
多く	6	9	15
形	6	8	14
上半身	7	7	14
気持ち	6	7	13
考え方	6	7	13
自身	5	7	12

テニスは頻度５以上、ゴルフは頻度７以上で出現した語で、テニスとゴルフに共通する語を表１に示した。テニスやゴルフの技術面を語る際に、双方に共通して一定以上の頻度で使われる語を合計頻度の高い順に一覧とした。ただし、基本語彙と見られる語、たとえば「する」「なる」「こと」などは省いた。

表１を見ると、「ボール」「打つ」「スイング」「体」などが共通して使われていることが分かる。当たり前であるが、テニス、ゴルフともに、スイングしてボールを打つことが基本のスポーツだということである。

ただ、頻度には差がある。「スイング」（頻度合計121）はテニス16に対してゴルフは105で、技術の上で「スイング」がより重要なのは、テニスよりゴルフであるということか。また、「打つ」（頻度合計155）は、テニス95、ゴルフ60でテニスの方が高く、逆に「振る」（頻度合計57）は、テニス８、ゴルフ49でゴルフの方が高くなっている。テニスはボールを「打つ」こと、ゴルフはクラブを「振る」ことが頻繁に述べられていることが分かる。

同じく、頻度の差が大きい語に「大きい」（合計63、Ｔ９、G54）、「大きな」（合計48、Ｔ７、G41）がある。この２語は、ゴルフの方の頻度が高い。「大きく振る」「スイングが大きい」、「大きな回転」「大きなスイング」のように使われる。「回転する」（合計37、Ｔ６、G31）もゴルフに多く出現しており、こちらは、ほとんどが「体を回転させる」という使われ方であった。大きく身体を回転させることがゴルフにとって大切なポイントと言えよう。

また、和語の「力」（合計37、Ｔ６、G31）と外来語の「パワー」（合計28、T15、G13）とを比べてみると、「パワー」の頻度差はほとんどないが、「力」はゴルフに多い。「腕の力」「手の力」といった使われ方が多く、このような場合には「パワー」はなじまないのであろう。

Ⅱ．副詞

副詞について少し見ておこう。表２には、状態副詞と程度副詞とを取り上げた。テニス、ゴルフの上達法や技術について、その動作や状態を述べる際に、どのようなことばが使われているのかという点に注目してみたい。

表2　副詞（テニス頻度５以上　ゴルフ頻度14以上）

テニス		ゴルフ	
語	頻度	語	頻度
しっかり	14	実際	29
例えば	9	ゆっくり	26
どんどん	5	さらに	24
		少し	14

テニスとゴルフとを比べてみると、テニスの「しっかり」とゴルフの「ゆっくり」との対比がうかがえる。テニスでは、しっかりと打つ、振る、準備するなど、「しっかり」が重要らしい。他方、ゴルフでは、ゆっくりとしたスイング、回転といったように、「ゆっくり」がキーワードとなっている。

Ⅲ．相違する語

表３　相違する語（テニス頻度12以上　ゴルフ頻度18以上）

テニス			ゴルフ		
語	頻度	ゴルフ	語	頻度	テニス
相手	70	0	クラブ	97	0
時間	45	2	ヘッド	80	0
サービス	39	0	ダウンスイング	43	0
私	31	1	飛ばす	37	0
テニス	24	2	シャフト	35	0
プレー	24	3	ヘッドスピード	34	0
ラケット	24	4	重心	32	4
選手	22	0	トップ	31	1
技術	20	5	飛ぶ	30	3
バックハンド	19	0	ドライバー	28	0
フォアハンド	19	0	左	28	4
多い	18	6	ゆっくり	26	2
練習	18	4	フェイス	26	0
テークバック	17	1	飛距離	26	0
ネット	17	0	体重	25	2
ボレー	17	0	さらに	24	4
リターン	16	0	いえる	22	2
三角形	16	1	作る	22	2
グリップ	15	6	今回	21	1
トス	15	0	上がる	21	3
プレーヤー	15	5	アマチュア	20	0
ラリー	15	0	右	20	3
弱い	15	0	プロ	19	1
つける	14	2	ボク	19	0
準備	14	2	左サイド	19	0
コート	13	0	タメ	18	0
バランス	13	2	意識	18	2
すべて	12	0	違う	18	4
一番	12	1	開く	18	2
心	12	0	左手	18	3
			変わる	18	2
			木	18	0

最後に、出現頻度の高い語で、共通しない語を表３に示す。各列の右端には、テニスではゴルフの、ゴルフではテニスの出現頻度を挙げている。道具や動きをはじめとして、テニスとゴルフとの相違が見てとれる。テニスの「相手」「時間」、ゴルフの「飛ばす」「飛ぶ」「重心」などは、それぞれ特徴的な語だと言えるだろう。

担当：佐竹秀雄・岸本千秋
作業協力者：梅澤友紀・小西弘子
2009年３月